

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103185
法人名	ジー・エル ファミール
事業所名	グループホームファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36 イーストビレッジ大和1F
自己評価作成日	平成21年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 9 月14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心して生活していただくために、介護される側、介護する側といった関係ではなく、お互いに尊敬しあい、思いやりを持って、支えあう関係を築いていきたいと思えます。職員は、いつも笑顔で、「ありがとうございます」の気持ちを忘れないように、毎日がんばっています。クリニックが併設しており、日々看護職員とのコミュニケーションもとれているので、状態の変化があった場合や、急変時に迅速に対応することが出来ます。又、日常のさまざまな不安もすぐに質問できるため、安心して生活できる環境になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療に熱心な医師が法人代表であり、事業所内に訪問診療中心のクリニックを併設している。職員も地域交流の大切さを認識し、運営推進会議からアドバイスを得たいと考え、議事録を毎回整理して全委員に送付するなどの取り組みに努めている。開設以来6年半を経過したが、職員の声かけや目配り・気配りの成果もあり、利用者の状態が入居時点と変わらず比較的維持できている。職員は、利用者と生活を共にすることで教えてもらうことも多く、昔話と一緒に泣くこともあり、仕事が楽しいと感じながら日々ケアにあたっている。利用者の思いに気づくことも多く、その都度カンファレンスで対応を検討し、支援に熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本貴子

評価完了日 21年 8月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) カンファレンス等で皆で共有する機会は持つようにして、実践につなげていけるよう努力しているが、大切な事なので、これからも常に意識付けが出来るように、工夫していきたい。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者が作った理念について、全職員が理解するため、毎月実施のカンファレンス時に内容を分析して共有するよう努めており、職員はますます内容の深みを感じるようになってきている。各ユニット毎に、理念に沿った月間目標（「笑顔满面」等）を立て、具体的な実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 普段の買い物に地域の店舗を利用したり、散歩等取り入れ、又、地域の行事には、出来る限り参加するようにしている。これからも、積極的に交流する機会を持ちたい。</p> <p>(外部評価) 日常的に買い物や散歩に出かけているが、利用者の気分転換や体力維持のためだけでなく、地域の方にホームの存在や利用者の顔を知ってもらい、繋がりを持ちたいという思いで職員は外出支援に取り組んでいる。運営推進会議を通して地域との交流も始まったと実感しており、地域行事にも積極的に参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々と交流を持つ機会を増やし（行事、家族会、運営推進会議等）理解していただく機会を作っていく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の会議を持ち、状況報告を行い、意見を頂き、運営に反映できるよう努力している。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 初期の段階では運営推進会議の運営に苦慮したこともあるが、現在は会議を通してホームの理念である「地域交流の支援」も理解してもらえるようになってきている。議事録は毎回整理し、全委員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の機会を利用して、意見交換させていただいている。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 市担当者とは、運営推進会議のメンバーとして参加を得ることにより、繋がりが強まったと感じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常のケアで問題に感じるケースや、疑問に思うケース等に対して、皆で話し合い工夫しながら、拘束を行わないようにしている。具体的な行為は、カンファレンスでも話し合ったこともあるが、また定期的に学んでいけるようにしたい。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 介護保険法における「身体拘束の対象となる具体的な行為」を理解するための研修を行っている。ホーム内で点滴治療を行う必要のあった利用者に対して、ミトン(拘束用手袋)を使用しないで対応する方法を職員で検討し、拘束をしないケアが実現できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等ある際は出来るだけ参加する機会を作り意識を高めていきたい。又、日常のケアについても、申し送り、カンファレンス等で意見を交わし、早期発見につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加している職員はいるが、全職員が十分に理解しているとはいえない。利用者様で後見人制度を利用されている方が居られるため、制度自体は理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族様、職場、その他の連携機関と話し合う場を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会（行事）等でのコミュニケーションを図って常に意見を出しやすい関係作りに努め、又、個々の面会時にも同様に、話を伺う機会を作っている。 (外部評価) 来訪時は勿論、家族と共に楽しむ行事(花火・クリスマス会・ひな祭り等)の際には、特に意識して声を聞くよう努めている。運営に関する意見は少ないが、利用者が転倒して受診した際に家族には事後報告になったケースがあったが、家族の意見により、現在は「すぐ報告する」システムが確立されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) カンファレンス等で、オープンな場を設け、職員の見 意見を活かせ、取り入れるように努力している。又、職 員からの意見を管理者会議で報告できるようにしてい る。 (外部評価) 職員の意見を聞く機会として毎月カンファレンスの前 後に時間を設け、年間行事、職員の食費負担、休憩時 間の確保等について検討し、納得できる結果となった 事例もある。現在、各ユニットとも運営規定に定めら れた職員数より2～3名多く職員が配置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 日々の勤務環境を整え、楽しくやりがいのある職場と なる様、努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 自主的に参加している職員も多く、又、出来るだけ参 加する機会を作れるよう個々に参加を促している。 研修案内は、見える所に掲示しており、誰でも参加で きるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣グループホームの連絡会、相互研修、グループ ホーム連絡協議会の研修等参加させて頂き、交流、情 報交換、サービスの向上につなげられるようにしてい る。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 出来るだけの情報を集め、本人の意向を尊重できるよ う、今までの生活との継続性がある生活出来るよう に、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様につとめている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 情報の提供を行い、理解しながら利用できるような努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 年長者として尊敬の気持ちを持ち、日々の生活での、経験や知識を教えて頂きながら、心から寄り添いながら生活が築けるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が訪ねて来やすい環境を整え、可能であれば一緒に食事を取っていただいたりする機会も作っている。その際にも、情報交換出来るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、訪問者の方が気軽に、気持ちよく来てくださるよう、職員全員で笑顔で対応出来るよう努めている。出かける場面は十分とはいかないが、家族様の協力をいただきながら、出来る限りの支援を行っている。 (外部評価) 開設初期の利用者の中には、病院から直接入居という形をとったために出身が遠方の方もおり、馴染みの人や場所との関係継続の支援は困難であったが、ホームに対する地域の理解も深まり、また最近では地元出身の利用者も増えてきたため、ホーム周辺での新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなどを利用して、それぞれの心の垣根を低くし、なじみの関係を築けるよう努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報に配慮し、必要な情報を提供できるようにしている。退所された後も、行事等声掛けしたり、関係が続いている家族様も居られる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアの中で意向、職員の気付きを大切にして、職員全体で共有出来る様な申し送り、カンファレンスになるようにしている。又、それを確認しながら、ケアに取り入れている。 (外部評価) 職員は「利用者本人はどう思っているか？」という視点を大切に、会話や表情をそのまま具体的に記入する利用者用申し送りノートを作り、活用している。その他、業務用申し送りノートもあり、職員が確認してサインし、情報を共有するシステムになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を付けながら、入居時のアセスメント以外にも、日々の生活の中での情報を共有し、又、家族様からもお話を伺える様な関係作りに努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活全般のケアに対しに利用者様の意見を取り入れながら、出来る事探しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 生活を共にしていく中から、課題や改善策を見つけ出し、月に1回のカンファレンスで評価しあいながら、毎月見直しを行っている。又、家族様にも、確認していただきながら、反映させている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は3か月毎に作成しているが、毎月のカンファレンス時にモニタリングを行っている。食欲が落ちたりうつ状態になる等、特に配慮が必要な利用者については、家族にアドバイスを受けて対応を検討し、介護計画に反映することもある。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 言葉、表情、動作等日常生活の様子が解るような記録になるように努力し、その中から気づき、ケアに繋げていけるように、皆で共有し、話し合っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 既存のサービス以外にも、民生委員さん、ボランティアさんにも支援していただき、柔軟なサービスの対応が出来るようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 十分とはいかないが、地域との関わりが持てるよう、地域行事の参加、又、近隣店舗の利用など、出来る事から努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ医 の変更を希望される方は多いが、以前からのかかりつ け医の方も居られ、往診も利用しながら、良好な関係 を作って頂いている。又、必要の応じて専門医の受診 も援助している。</p> <p>(外部評価) ホームと同建物内に、法人代表がクリニックを併設し ているため、入居時にかかりつけ医をクリニックに変 更することもある。糖尿病等で専門科を継続して受診 している利用者もいるが、日常の健康管理はクリニッ クの医師が担っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) クリニックと併設している為、日々の生活の中でも看 護職員とのコミュニケーションが取りやすく、又連携 にも努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院期間との話し合いを密にして、情報を提供しなが ら、入院生活の負担やストレスが軽減できるように努 めている。又、面会の際、情報の収集や、状態の把握 に努め、退所後のケアに繋げている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 段階ごとに、家族様、かかりつけ医、看護師、職員等 との話し合いの場を設け、納得できる支援が出来るよ うに努力している。</p> <p>(外部評価) 入居申し込み時から、重要事項説明書により看取りに 関する方針を説明している。協力医療機関との連携体 制もあり、法人代表の運営するクリニックも併設して いるため、職員の不安は比較的少ない。看取りの経験 は一例あり、今後も利用者一人ひとりをベストの状態 で支えたいとの思いで、希望があれば対応したいと考 えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年2回の消防訓練に合わせ救急蘇生法の講習を取り入れている。又、あらかじめ、既往症に対する救急の対応を、必要に応じて看護師等から教えていただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練では、実際に入居者様も避難して頂いているが、十分とはいえない。職員だけでは限界があるため、地域の方々と一緒に避難訓練を行ったり、話し合う機会を作れるよう、具体的に行動に移したい。 (外部評価) 消防避難訓練は、利用者も参加して年2回実施しているが、職員だけでは対応できないことを実感しており、地域の方と話し合う機会を作り、協力を得ていきたいと考えている。	運営推進会議と同時に消防避難訓練を開催して地域の方にも多く参加してもらい、その状況から今後の方策や協力体制について意見交換を行うなど、地域との協力体制を築くための取り組みを工夫していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に意識し、話し合う場を持ち、実践できるように努力していきたい。 (外部評価) 職員は、「利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない」という考えのもと、居室には必要以上に入らないよう心がけている。また失敗を他の利用者に気付かれないよう常に意識して対応している。認知症の症状が進行した利用者への関わりをさらに工夫し、敏感に対応したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、表情や反応を注意深くキャッチしその意味を考え、対応するようにしている。又、その対応に対して、評価しあえるように話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ努力して対応しているが、職員の勤務によっては十分に迅速に対応出来ない時もある。その際には、事情等説明させていただき出来るだけ理解していただけるようにしている。又別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会を増やす事によって、身だしなみを気にしたり、おしゃれをしたい気持ちになる様に支援していきたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食べ物を取り入れ、手作りを心がけ、職員と利用者様が一緒に席に着くことで、話題を提供しながら、美味しく、楽しく食事が取れるように努力している。 (外部評価) 胃ろうの利用者や全介助に近い利用者も、全員と一緒に食卓を囲んでいる。昼食準備のみ専任のパート職員が対応しているが、食事風景は和やかで会話も弾んでいる。食後は消化を助けるための理由もあってコーヒータイトとしており、すぐ自室に帰る利用者はおらず、話し声や笑い声が絶えず響いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が食事、水分の大切さを勉強し、個々の状態や好みに合わせ、工夫している。また、記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科衛生士さんの助言も頂きながら、食後3回の口腔ケアを習慣化させ、状態に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の状態に合わせ、日中はトイレでの排泄を目標として、又夜間は安眠を目的として、関連業種のアドバイスも頂きながら、支援している。	
			(外部評価) 日中は可能な限りトイレでの排泄を目指し、夜間は失禁防止よりも安眠を優先するなど、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、寒天、ヨーグルトなどを多く取り入れた食事の工夫や、水分摂取、適度な運動で対応している。また、トイレで落ち着いて座れるように、環境作りに気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に合わせ、入浴日、時間の設定を可能な限り行っている。入浴が、楽しみや憩いの時間となるように、出来る限り湯船につかって頂き、ゆっくりと入浴できるように努力している。	
			(外部評価) 職員は、「入浴は毎日したい」のが当たり前と考え、利用者の希望に応じるよう努めている。どうしても対応が難しい時には声をかけ、足浴や清拭で対応することで納得してもらっている。シャワー浴の設備もあるが、利用者の好む「湯船につかる入浴」を楽しんでもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は安眠を重視したケアを行っており、日中の過ごし方にも気をつけながら、メリハリのある生活を送れるように援助している。日中もベッドで休息できるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時に主治医から本人に解りやすく説明いただいているが、十分理解出来ない時もある。往診時や、受診時には、家族様が職員が付き添い、正しい情報提供を行い、又、医師からの話を一緒に聞くようにしている。副作用についても、職員で理解し、状態把握できるように記録に残すようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員が、根気強く寄り添い、また、以前の生活歴を家族様からお聞きする事で、楽しみや、役割が見つけれられるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や、買い物などできるかぎり、支援している。又、家族様や、地域の方に援助して頂きながら、外出の機会を増やしたり、季節ごとに少し遠出の外出も取り入れている。 (外部評価) 気分転換、ストレス発散、五感刺激の機会として、スーパーに買い物に行く、花屋で花を買う、ホーム玄関前のベンチで外気に触れながら道行く人の動きを見る、庭の花壇の世話をする等、利用者の希望に対応するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等では、出来る限り利用者様にお金を払っていただくことで、社会との繋がり感じて頂けるようにしている。預かり金に関しては、個人的な買い物も出納長に記入して、領収書も保管し、家族様に定期的に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分はフォローしながら、支援している。電話は24時間いつでも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有スペースの環境を整え、快適に過ごせるように支援している。又、職員の声の大きさ、テレビの音、レクリエーションの音など、入居者様に苦痛にならないように配慮している。	
			(外部評価) 食堂兼居間は、特別整理整頓が行き届いているとは言えないが、台所からの物音、話し声、笑い声が絶えることなく良いムードであり、利用者にとってはリラックスできる空間になっていることがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 安全に配慮しながら、出来るだけ自由に、思い思いに過ごせるように、又、個々の生活スペースは、プライバシーに配慮しながら、必要以上に立ち入らないようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みのものを持ち込んでいただく意味を理解して頂き、今までの生活の継続性が少しでもあるように、安心して暮らして頂けるように援助している。	
			(外部評価) 居室にはベッド、整理ダンス、洋服ダンスがあるが、自由に配置変えできる。押し入れ等の保管庫はなく、季節毎の入れ替えは家族の協力を得ている。利用者一人ひとりの好みに応じた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、表示、表札などを利用し、生活スペースで困っている場合は、工夫して、改修や介護用品を取り入れ対応出来るようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	ジー・エル ファミール
事業所名	グループホームファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36イーストビレッジ大和1F
自己評価作成日	平成33年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 9 月14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心して生活していただくために、介護される側、介護する側といった関係ではなく、お互いに尊敬しあい、思いやりを持って支えあう関係を築いていきたいと思っております。職員は、いつも笑顔で、「ありがとうございます」の気持ちを忘れないように、毎日がんばっています。クリニックが併設しており、日々看護職員とのコミュニケーションもとれているので、状態の変化があった場合や、急変時に迅速に対応することが出来ます。又、日常のさまざまな不安もすぐに質問できるため、安心して生活する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療に熱心な医師が法人代表であり、事業所内に訪問診療中心のクリニックを併設している。職員も地域交流の大切さを認識し、運営推進会議からアドバイスを得たいと考え、議事録を毎回整理して全委員に送付するなどの取り組みに努めている。開設以来6年半を経過したが、職員の声かけや目配り・気配りの成果もあり、利用者の状態が入居時点と変わらず比較的維持できている。職員は、利用者と一緒に生活することで教えてもらうことも多く、昔話と一緒に泣くこともあり、仕事が楽しいと感じながら日々ケアにあたっている。利用者の思いに気づくことも多く、その都度カンファレンスで対応を検討し、支援に熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 谷本貴子

評価完了日 21年 8月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づいた月の目標をカンファレンス時に作成し、ホーム等に貼り理念の実践に結びつくようにしている。	
			(外部評価) 開設時に代表者が作った理念について、全職員が理解するため、毎月実施のカンファレンス時に内容を分析して共有するよう努めており、職員はますます内容の深みを感じるようになっていく。各ユニット毎に、理念に沿った月間目標（「笑顔満面」等）を立て、具体的な実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の店舗を利用したり、散歩等取り入れ、又、地域の方々から行事等の情報を教えていただき出来る限り参加している。これから積極的に交流する機会を作りたい。	
			(外部評価) 日常的に買い物や散歩に出かけているが、利用者の気分転換や体力維持のためだけでなく、地域の方にホームの存在や利用者の顔を知ってもらい、繋がりを持ちたいという思いで職員は外出支援に取り組んでいる。運営推進会議を通して地域との交流も始まったと実感しており、地域行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々と交流を持つ機会（行事、家族会、運営推進会議）を増やし理解していただく機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の会議を持ち状況報告を行い意見を頂 き、運営に反映させている。	
			(外部評価) 初期の段階では運営推進会議の運営に苦慮したことも あるが、現在は会議を通してホームの理念である「地域 交流の支援」も理解してもらえるようになってい る。議事録は毎回整理し、全委員に送付している。	運営推進会議は軌道に乗り、具体的な情報交換もはじ まっているが、メンバーを固定せずその日の検討テ ーマに必要な人材に参加を依頼したり、発言しやすい環 境を整えるため複数の家族の参加を得るなど、さらな る工夫に取り組むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の場を利用して、意見交換させていた だいている。	
			(外部評価) 市担当者とは、運営推進会議のメンバーとして参加を 得ることにより、繋がりが強まったと感じている。	市の担当課には、ホームでの些細な事例等、介護で得 た成果も含めてより積極的にホームの状況をアピール し、情報を共有して協力関係を築くよう取り組みをす ずめることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常のケアで問題となるケースや、疑問に思 うケースに対し、皆で話し合い、工夫しな がら拘束を行わないようにしている。具 体的な行為はカンファレンスで話し合 ったこともあり、また、定期的に学んで いけるようにしたい。	
			(外部評価) 介護保険法における「身体拘束の対象とな る具体的な行為」を理解するための研修を 行っている。ホーム内で点滴治療を行 う必要のあった利用者に対して、ミ トン(拘束用手袋)を使用しないで対応 する方法を職員で検討し、拘束をしない ケアが実現できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等ある時には、出来るだけ参加する機会を作り意識を高めていきたい。又、日々のケアに付いても、申し送り、カンファレンス等で意見を交わし、早期発見に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が十分に理解しているとはいえない。研修等の機会を、積極的に利用し理解に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族様、職員、その他の連携機関と話し合う場を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に努めている。 (外部評価) 来訪時は勿論、家族と共に楽しむ行事(花火・クリスマス会・ひな祭り等)の際には、特に意識して声を聞くよう努めている。運営に関する意見は少ないが、利用者が転倒して受診した際に家族には事後報告になったケースがあったが、家族の意見により、現在は「すぐ報告する」システムが確立されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度のカンファレンス等において意見や提案を出し合っている。	
			(外部評価) 職員の意見を聞く機会として毎月カンファレンスの前後に時間を設け、年間行事、職員の食費負担、休憩時間の確保等について検討し、納得できる結果となった事例もある。現在、各ユニットとも運営規定に定められた職員数より2～3名多く職員が配置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日々の勤務環境を整え、楽しくやりがいのある職場環境となるように、努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 出来るだけ、全職員が研修に参加できるように、個々に参加を促し、又、だれでも研修情報が解り、参加できるように、掲示している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣グループホームの連絡会、相互研修、グループホーム連絡協議会の研修等参加させていただき、交流、サービスの向上につながるようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来るだけの情報を集めて、本人の意向を尊重できるように、継続性のある生活が出来るように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 情報の提供を行い、理解し、納得して利用できるように、努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 十分とはいえないが、家事を一緒に行ったり、買い物等職員といっしょに行って頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 努力はしているが、まだまだ十分とはいえない。面会の機会は多く、ほぼ毎日面会にいられている家族様も居られ、職員では埋めていけない部分を助けて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、又、訪問者の方が気軽に、気持ちよく来てくださるように、職員全員で笑顔で対応するように努めている。出かける場面は、十分ではないが、出来る限りの支援をおこなっている。 (外部評価) 開設初期の利用者の中には、病院から直接入居という形をとったため出身が遠方の方もおり、馴染みの人や場との関係継続の支援は困難であったが、ホームに対する地域の理解も深まり、また最近では地元出身の利用者も増えてきたため、ホーム周辺での新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に生活する中で、お互いに関わりが深く、なじみの関係が築けていると思う。上手くコミュニケーションがとれない場合には、職員がさりげなくフォローする様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 十分とはいえない。今後の課題のひとつである。 (外部評価) 職員は「利用者本人はどう思っているか？」という視点を大切に、会話や表情をそのまま具体的に記入する利用者用申し送りノートを作り、活用している。その他、業務用申し送りノートもあり、職員が確認してサインし、情報を共有するシステムになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしているが、十分とはいえない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活を共にしていく中から課題や改善策を見つけ出し、月に1度のカンファレンスで評価しあいながら、毎月見直しをおこなっている。又、それを家族様にも確認頂きながら、プランに反映させている。	
			(外部評価) 介護計画は3か月毎に作成しているが、毎月のカンファレンス時にモニタリングを行っている。食欲が落ちたりうつ状態になる等、特に配慮が必要な利用者については、家族にアドバイスを受けて対応を検討し、介護計画に反映することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) カンファレンス等で、十分行えている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 既存のサービス以外にも、民生委員さん、ボランティア達にも支援していただき、柔軟なサービスの対応が出来るように努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 十分とはいかないが、地域との関わりが持てるよう地域行事の参加、近隣店舗の利用など、出来る事から努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ医 の変更を希望される方は多いが、以前からのかかりつ け医の方も居られ、往診等も利用しながら、良好な関 係を作っている。必要に応じて、専門医の受診 も援助している。	
			(外部評価) ホームと同建物内に、法人代表がクリニックを併設し ているため、入居時にかかりつけ医をクリニックに変 更することもある。糖尿病等で専門科を継続して受診 している利用者もいるが、日常の健康管理はクリニッ クの医師が担っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニックと併設している為、日々の生活の中でも看 護職員とのコミュニケーションが取れている。また、 連携に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院機関との連携を密にして、情報を提供しながら入 院生活の負担やストレスが軽減できるように努めてい る。又面会の際、情報収集や状態の把握に努め、退所 後のケアに繋げている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 段階ごとに本人、家族様、かかりつけ医、看護職員、 介護職員等との話し合いの場を設け、納得できる支援 が出来るように努力している。	
			(外部評価) 入居申し込み時から、重要事項説明書により看取りに 関する方針を説明している。協力医療機関との連携体 制もあり、法人代表の運営するクリニックも併設して いるため、職員の不安は比較的少ない。看取りの経験 は一例あり、今後も利用者一人ひとりをベストの状態 で支えたいとの思いで、希望があれば対応したいと考 えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年2回の消防訓練に合わせ、救急蘇生法の講習を取り入れている。又、状態に合わせ、あらかじめ、既往症に対する救急の対応を看護職員から指導していただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練で実際に利用者様も避難してもらっているが、十分とはいえない。職員だけでは限界があるため、地域の方々と一緒に避難訓練を行ったり、話し合う機会を作れるように、具体的に行動に移したい。 (外部評価) 消防避難訓練は、利用者も参加して年2回実施しているが、職員だけでは対応できないことを実感しており、地域の方と話し合う機会を作り、協力を得ていきたいと考えている。	運営推進会議と同時に消防避難訓練を開催して地域の方にも多く参加してもらい、その状況から今後の方策や協力体制について意見交換を行うなど、地域との協力体制を築くための取り組みを工夫していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お互いに話し合っている。又、カンファレンスなどでも、課題に上げ、話し合っている。 (外部評価) 職員は、「利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない」という考えのもと、居室には必要以上に入らないよう心がけている。また失敗を他の利用者に気付かれないよう常に意識して対応している。認知症の症状が進行した利用者への関わりをさらに工夫し、敏感に対応したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思の疎通が難しい事もあるが、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の勤務体制上、出来ていない事もあ。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来るだけ支援はしているが、工夫すれば、もっとおしゃれ等の支援が出来ると思っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様で、調理や準備を一緒に行っている方もおられるが、まだまだ不十分である。	
			(外部評価) 胃ろうの利用者や全介助に近い利用者も、全員が一緒に食卓を囲んでいる。昼食準備のみ専任のパート職員が対応しているが、食事風景は和やかで会話も弾んでいる。食後は消化を助けるための理由もあってコーヒータイトとしており、すぐ自室に帰る利用者はおらず、話し声や笑い声が絶えず響いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が食事、水分の大切さを理解しており、状態や、好みに合わせ、援助している。また、記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 同様にしている。	
			(外部評価) 日中は可能な限りトイレでの排泄を目指し、夜間は失禁防止よりも安眠を優先するなど、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) あらかじめ順番や、時間を決めて入浴して頂いており、柔軟な対応は出来ていない。出来るだけ希望に添うような入浴方法を考えていきたい。	
			(外部評価) 職員は、「入浴は毎日したい」のが当たり前と考え、利用者の希望に応じるよう努めている。どうしても対応が難しい時には声をかけ、足浴や清拭で対応することで納得してもらっている。シャワー浴の設備もあるが、利用者の好む「湯船につかる入浴」を楽しんでもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの生活歴等活かしながら、針仕事、洗濯物干し、花、野菜の世話など行えるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物、散歩等、本人の希望により、出来る限り支援している。	
			(外部評価) 気分転換、ストレス発散、五感刺激の機会として、スーパーに買い物に行く、花屋で花を買う、ホーム玄関前のベンチで外気に触れながら道行く人の動きを見る、庭の花壇の世話をする等、利用者の希望に対応するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様におこなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様におこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者様手作りの、季節の飾り物を、リビングに飾り楽しんでいる。	
			(外部評価) 食堂兼居間は、特別整理整頓が行き届いているとは言えないが、台所からの物音、話し声、笑い声が絶えることなく良いムードであり、利用者にとってはリラックスできる空間になっていることがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 同様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇を持って来られて居る方も居られ、同様に行えている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、整理ダンス、洋服ダンスがあるが、自由に配置変えできる。押し入れ等の保管庫はなく、季節毎の入れ替えは家族の協力を得ている。利用者一人ひとりの好みに応じた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 常に利用者さんの様子観察、傾聴を行い、自立した生活が送れるように支援している。	